

5.瀬戸町

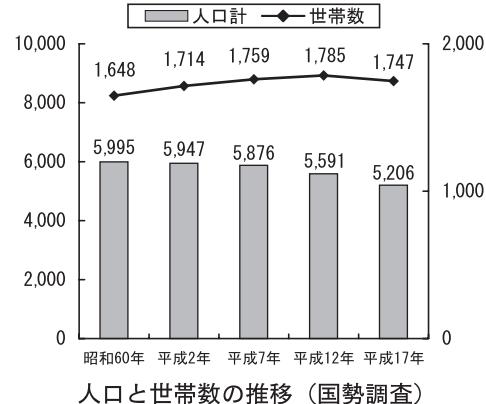
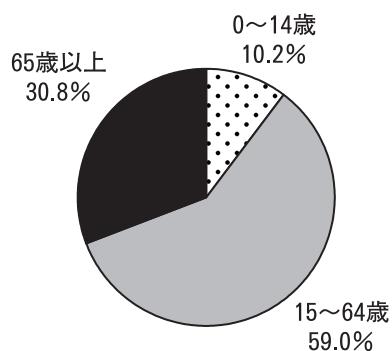
5-1 現状

〈人口〉

比較的人口規模のある堂浦、北泊地区では、昭和50年頃から緩やかな人口減少が続いています。明神地区は、土地区画整理事業により住宅地が供給されたことから昭和55年頃から人口が増加していましたが、ここ数年は3,000人程度で推移しています。その他の集落地では、少ないながらも緩やかに人口が減少しています。この地域の人口は全体として緩やかに減少しており、老人人口が30%を超えるなど、少子高齢が進んでいます。

人口	5,095人	世帯数	2,147世帯
世帯あたりの人数	2.4人／世帯		
年齢別人口	年少(0~14歳)	520人	10.2%
	生産年齢(15~64歳)	3,007人	59.0%
	老年(65歳以上)	1,568人	30.8%

※世帯数・人口：平成22年3月末現在住民基本台帳登録人口



〈土地利用・市街地整備・都市施設・公共交通〉

- 本地区は、ウチノ海の西側に位置し、地区のほとんどが瀬戸内海国立公園に指定された景勝地で、鳴門スカイラインからの眺望が美しく、また堂浦地区を中心に観光用の屋形釣り漁業も盛んです。
- 明神と堂浦地区の一部が市街化区域となっていますが、地区のほとんどが市街化調整区域で、地区により異なった土地利用となっています。
- 明神地区では土地区画整理事業により、水と緑が豊富な市街地が形成されています。堂浦・北泊地区は、山際の少ない平地に住宅が密集した特徴的な漁村集落が形成されています。
- 明神地区の工業地には富田製薬が立地しており、主要幹線道路沿いに鳴門複合産業団地、なるとソフトノミックスパークなどの産業団地が建設され、企業立地が進みつつあります。
- 中心市街地方面を結ぶ鳴門市営バスが運行されています。また、堂浦と島田島を結ぶ渡船が運航されており、市民の日常の足として利用されています。

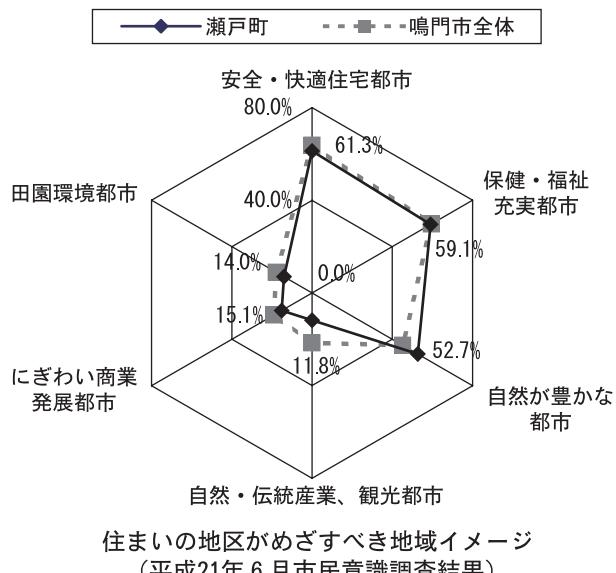
〈その他〉

- 平成20年に供用開始したクリーンセンターでは、自然環境との調和を図るため、「子どもたちとふくろうの森」の整備を進めています。

- 島しょ・山林部では、美しい自然環境を利用したゴルフ場やホテルなどの観光レジャー施設が立地しており、日出地区では海洋リゾート施設の建設計画があります。

5-2 課題

- ①鳴門公園やウチノ海等の観光拠点のネットワーク化や周遊ルートの整備が必要です。
- ②明神地区は、土地区画整理事業により優良な宅地を供給しているものの、未利用のまま放置されている土地が多く、有効利用が必要です。
- ③堂浦・北泊地区の一部では、狭あいな道路沿いに住宅が密集しており、防災面等で課題があります。
- ④都市計画道路大津橋日出線、下本城海岸線は、地区内の幹線道路として整備が進められていますが、なお未整備区間を残しています。
- ⑤地区内には商業地がないため、日常の買い物を中心市街地とその周辺に依存しており、今後、高齢化の進展に伴い移動困難者の増加が予想されることから、中心市街地への公共交通の確保が必要です。
- ⑥国道11号沿いの採石場跡の露岩が景観を損なっているため、採石後は緑化等による自然回復を図るなど景観に対する配慮が必要です。
- ⑦人口減少・少子高齢が進んでおり、特に島しょ部などでは集落間の距離が遠いため地域のコミュニティの維持に課題があります。



地区懇談会での主な意見

- ・明神日出線の拡幅について
- ・漁業振興と地域の活性化策について
- ・クリーンセンター建設に伴う周辺対策について
- ・島田地区など人口減少対策について

平成21年度実施地区懇談会

5-3 地域づくりの基本目標

以上をふまえて、地域づくりの基本目標を

- 工業・漁業と住宅が調和し水と緑が豊富な快適な住環境のまち
- 豊かな自然環境を守り漁業を振興するまち
- 美しい海と島の景観を活かした観光レジャーのまち

とします。

5-4 基本構想

(1) まちづくりの拠点

① 観光リゾート拠点

島しょ部は瀬戸内海国立公園に指定されるなど、自然の豊かさを活かした観光施設、スポーツ・レクリエーション施設などのネットワーク化により、地区全体を観光リゾート拠点と位置づけ、鳴門公園やウチノ海総合公園などとの連携を図ります。

② 水の拠点

地区内の各漁港については、地域住民と都市住民の交流拠点形成に向けた施設整備を検討します。

日出湾については、土地の有効利用と地域の活性化のため、民間事業者による新たな観光リゾート施設の整備を推進します。

③ 緑の拠点

クリーンセンター周辺を緑の拠点と位置づけ、周辺の自然環境との調和を図るため、引き続き「子どもたちとふくろうの森」の整備を進めます。

(2) まちづくりの軸

① 広域軸

西に国道11号が走り、徳島・高松方面への広域軸を形成しています。

② 地域軸

県道亀浦港檍木線（鳴門スカイライン）を島しょ部の周遊観光道路として位置づけ、都市計画道路大津橋日出線、下本城海岸線の一部未整備区間の整備を進めます。

5-5 土地利用の方針

① 住居専用ゾーン

土地区画整理事業が完成した地区では、低密度で良好な住宅地が提供されていますが、一部で未利用地が残っていることから、良好な住宅地としての土地の有効利用を図ります。

② 一般住居ゾーン

土地区画整理区域については、良好な住宅地が整備されています。幹線道路沿いを中心に商店も立地し住宅と混在した土地利用となっていますが、市街地の無秩序な拡大を抑制しつつ、快適な住宅地としての土地利用を進めます。

③工業ゾーン

なるとソフトノミックスパークについては、周辺の自然環境との調和にも配慮した企業の立地誘導を進めます。

明神丸山地区周辺は、工業地域としての機能性を維持するとともに、一部で住宅系土地利用との混在が見られることから、土地利用動向をふまえ、既存住宅の建て替え等に合わせて適切な土地利用を図ります。

④島しょ・山林ゾーン

地区の島しょ・山林部のほとんどが瀬戸内海国立公園に指定されていることから、自然環境の保全と乱開発の防止に努めます。

採石場については、景観向上のため自然回復と緑化を推進します。

漁業を中心とする集落地については、環境との調和を図りながら、今後も漁業者の生活の場としての機能が十分に維持されるよう集落のコミュニティの維持を図ります。

5-6 防災・生活環境その他特記事項

- 堂浦・北泊地区の一部住宅が密集している地区については、建築物の立て替えなどに合わせ、セットバックによる細街路の道路拡幅、行き止まりの解消、ポケットパークの整備等を進め、防災機能の充実を図ります。
- 定住人口や交流人口の増加に向け、地域の実情に応じて、UJITターンや二地域居住など地域の活性化策について検討します。
- 鳴門市汚水処理構想に基づき、公共下水道（汚水）の整備を推進します。

瀬戸町



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平22業複、第228号）